

## 学校経営のポイント

### “通学途中の犯罪被害”防止の徹底

若井 彌一

新潟県中越地震の発生（10月23日夕刻）と、その後の余震に伴う深刻極まる被災状況、被災に屈せず生き抜こうとする住民・子どもらの姿、多くの人々による励ましに関する報道が目立った1ヵ月間であったが、今度は災害ではなく、下校途中の小学校1年児童が犠牲となる誘拐・殺人事件が奈良市で発生してしまった。被害者のご冥福をお祈りしたい。

#### 繰り返される“通学途中の誘拐・殺人”事件

今回の事件の犯人はまだ逮捕されておらず、事件の全容解明はできていない（11月21日現在）。けれども、断片的な事実は判明しつつある。

下校途中に、被害児童が車に乗った男から声をかけられ、まもなく乗車したこと（複数の児童が目撃）、殺害された児童の肺にたまっていた水は泥などを含有せず、きれいな水であること、髪は濡れていたが、衣服は濡れていなかったこと、等である。詳細な犯行経緯の解明は、今後、比較的短期間に進むと予想され、また期待もしたい。

ここで訴えたいことは、わが国でも通学途中の児童・生徒は、ときに誘拐・殺人等の犯行の標的にされるという事実と、その事実をふまえた学校・家庭・地域住民の連携・協力による対応の徹底である。

抽象的な理念論ではなく、各学校で緊急に実施していただきたいことを2点提案しておく。

通学中の登校時が安全とはいえないけれども、誘拐事件は下校時に発生しやすいことが、事例的に見る限りははっきりしている。

登校時の場合は、学校に定刻までに着かなくてはならないという「強い制約」のもとにあることを、犯罪者（多くの場合は成人）は計算にいれたうえで、比較的「ゆるやかな制約」のもとにある下校時がね

らわれていると推認される。

いずれにせよ、登・下校の双方を含め、次の事項を保護者との連携のもと、地域住民の協力も得ながら徹底することに努めたい。

#### ねらわれやすい“下校時”と安全対策

（1）見知らぬ人から声をかけられても、車には乗らない。誘われても、「いいえ、結構です」「乗りたくありません」と、ハッキリ言えるように準備（訓練というほどではない）しておくことが肝心である。

力づくの場合には、即座に「誰か、助けて！」と大声で叫ぶようにする（具体的対応は微妙であるから、各学校で検討していただきたい）。

（2）通学時（とくに下校時）に、児童・生徒が必要に迫られたら、緊急連絡をとることができるように、連絡先を親子で確認し、迷わずに実行できるようにしておく。

学校でも、緊急連絡の必要がある場合、児童・生徒の自宅電話で用が足りないときに、どのような連絡方法をとるかを、あらかじめ保護者との合意のうえで確認し、実行できるようにしておくこと。むろん、110番通報の仕方も理解させ、実行できるようにしておく。

このような緊急提案をすること自体、寂しさも感じるが、すさんだ社会の現実を直視した具体的対応が危機管理の一環として不可欠である。地域住民への呼びかけも怠らないようにしたい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

子どもを守る **学校の危機管理ガイドライン**

大泉光一【著】A5判 190頁・定価 1890円

●新刊案内●

最新刊 好評発売中！

教育開発研究所刊

文科省が学習障害等へのガイドラインを公表！ 上野一彦【編集】A5判 224頁・定価 2310円

## 小・中学校における LD、ADHD、高機能自閉症の子どもへの教育支援

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）